

お盆「六方礼のはなし」

仏教の開祖お釈迦様の説法の中で、大変意義深いものに「六方礼」の教えがあります。インドでお釈迦様が在世の時、シンガーラという一人の青年が毎朝早朝に起きて身を清め、合掌して、東、西、南、北と天、地の六方に向かって礼拝をしていました。

ある朝、お釈迦様が托鉢の修行中、自宅の前で手を合わせ礼拝するシンガーラの姿を見ました。

最初に東の方に向かって手を合わせ、次に南の方、西の方、北の方と同じことを繰り返し、それから天と地に向かって礼拝しています。

その敬虔な礼拝の姿に感動されたお釈迦様は「あなたはこの礼拝を誰から教わったのか」と尋ねました。するとシンガーラは「亡き父母も同じようなことをしていました。私はそれを毎日実行しているに過ぎません」と答えました。

そこでお釈迦様は、意味を知って拝めばさらに礼拝の意義が深まるなどを話され、「六方礼」について次のように説かれました。

「東方を拝む時は私を生み育てて下さった父母に感謝し、南方を拝む時は私を導いて下さった先生に感謝し、西方を拝む時は妻と子供に感謝し、北方を拝む時は友人や社会に感謝し、天を拝む時は仏様の恵みに感謝し、大地を拝む時は自分より若い人に感謝せよ。それが六方を礼拝する意味である」と。

「六方礼」の学びを通じて、“令和”という新しい時代の節目に自身を見つめ直す事は意義の深い事です。

令和元年のお盆はご仏前を整え、亡きご先祖様が「今、ここに在る」との思いを胸に供養と礼拝に努めましょう。

南無大師遍照金剛

合掌

お知らせ

※当山では、布教活動の一環として月曜から金曜毎朝 7 時に一口法話を携帯に配信しています。右のQRコードよりメール会員にご登録下さい。



編集後記

日本も世界も政治、経済も波乱含み。余談を許さず、まさに先の読めない状況。自然災害と人為的災害、混沌とした時代。片時も息を抜けないような状況の中でも皆様が、少しでも希望を持ち喜んでいただける事を願い、新聞の編集を致しております。弘法新聞に対するご意見、ご質問、体験談などございましたら宜しくご協力お願い致します。

合掌